

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立飯野高等学校・全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれが信頼される社会人としての基本を身につけている学校 個々の生徒の実践力と学力を両立させる学校 生徒の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動、優れた人権感覚など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒 専門性のある特色ある学習活動を行い、高い創造力や国際感覚を身につけている生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> 高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員 学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員 新たな取り組みに積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 全学年対象アンケートより、わかりやすい授業と充実した進路指導を期待している</p> <p>〈保護者〉 全保護者対象アンケートから教科指導や進路指導の充実を期待している</p> <p>〈地域〉 生徒と共に学ぶ日本語基礎講座の受講希望及びデザインや英語力を活かした活動など高校生の社会貢献を期待している</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 学力向上と礼儀やマナーを身につける</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受け入れを期待している</p> <p>〈地域〉 学力、コミュニケーション力を向上させる</p>	<p>〈保護者〉 ・学校教育への理解と積極的な協力を行う</p> <p>〈中学校〉 ・学校生活が適切にできる生徒を育てる</p> <p>〈地域〉 ・卒業生の積極的受け入れを行う</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の融合という発想はとてもよい。今後はさらに進めてほしい。 外国人生徒への支援体制の充実はとてもよいが日本語も含めた日本の文化を理解させ、日本人社会に適応させる手立てをさらに検討してほしい。 全日制と定時制の交流があっても良い。両者の良い点を情報交換すべきである。 地域への情報発信に努め、地域から信頼される学校となるよう期待している。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>専門性の高い学科で、両科とも学ぶ意欲を持った生徒が年々増加傾向にあるが、精神的な支援や生活習慣及びマナー指導などの指導体制の充実が必要となっている。</p> <p>一部の生徒には基礎学力に不足が見られ、また極端な苦手教科があるなどバランスの悪い学力の状態を改善できるような個別対応や学年での取組体制などの整備が必要である。</p>	
	学校運営等	<p>進路指導の充実と低学年からのキャリア教育の推進を図る等、学校全体の指導体制を確立していく事が必要となっている。</p> <p>基本的な生活習慣の確立と集団生活の中での自己管理ができるようにするための生徒指導体制の充実が必要となっている。</p> <p>特別な支援が必要な生徒や日本語能力が不十分な生徒など、個々の生徒の実態把握と状況に応じた支援体制をさらに充実させることが必要となっている。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上を目指し、授業の改善と教職員の指導力向上を図る。 ・3年間を見据えた系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う。 ・基本的な生活習慣やマナー指導を徹底し、生徒指導の充実を図る。 ・外国人生徒支援教育の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る。 ・学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う。 ・地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する。 ・生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する。 ・教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力の向上を目指し、授業改善を行い、教職員の指導力向上を図る	(1) 授業の改善 ○活動指標 ・年2回以上5日間の授業公開の設定 ○成果指標 ・100%実施	・1学期・2学期に各3日 ・100%	
	(2) 教職員の教科指導力向上 ○活動指標 ・授業参観と研究協議の設定 ○成果指標 ・他教員の授業参観者20名以上	・本校で家庭・美術・日本語教育の研究協議会開催、公開日の授業参観 ・24名が他教員の授業参観	※
	(3) 補習や宿題期間による学習習慣づくりの実施 ○活動指標 ・考査前補習と各学期の宿題期間 ○成果指標 ・100%実施	・補習・課外・宿題期間を実施 ・100%	※
	(4) 英コミ科における英検や TOEIC の受験者数増加 ○成果指標 ・英検2級以上合格者20名以上	・英検1級1名・準1級2名・2級14名	◎
	(5) 応デ科における各種コンペへの参加数増加 ○成果指標 ・昨年比10%増	・デザインコンペへの参加者数は昨年とほぼ同数	◎

<p>系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う</p>	<p>(1)進路意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・各学年別進路ガイダンス、校内研修の実施 ○成果指標 ・各学期1回以上 <p>(2)計画的な模試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・4年制大学進学者の増加 ○成果指標 ・応デ科30名以上、英コミ科20名以上 <p>(3)就職希望対象の「我究」のプログラム実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・年間12回実施 ○成果指標 ・内定率の向上 <p>(4)教職員全員による礼儀、マナー指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・全員による面接指導の実施 ○成果指標 ・100%実施 <p>(5)鈴鹿ロータリークラブの学年集会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・キャリア教育に関わる講話の実践 ○成果指標 ・年間2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じ1年4回、2年5回・3年3回 ・模試後に解説会を実施 ・応デ科19名27校、英コミ科17名18校(2月末) 16回実施 ・内定率100% 一次選考内定65%(昨年比10%増) ・生徒から教員への依頼で行っている、26名が実施 1・2学年で実施 	<p>※</p> <p>◎</p>
<p>外国人生徒支援教育の充実を図る</p>	<p>(1)生徒の実態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・担任、教科担当者等との情報交換会実施 ○成果指標 ・年間3回以上実施 <p>(2)日本語能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・日本語能力試験受験者数増加 ○成果指標 ・N3以上30名 <p>(3)奨学金などの紹介と申込など経済的に困難な受験の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・説明会と申請手続き指導の充実 ○成果指標 ・生徒、保護者対象それぞれ年間2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際サポート委員会を6回実施 ・受験者72名(昨年比2倍) 59名合格(昨年比2倍) ・各種奨学金の説明・申請手続き、1・2年生に大学進学にかかる経費について説明 	
<p>生徒指導の充実を図る</p>	<p>(1)指導の機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・アンケートと面談の実施 ○成果指標 ・各学期1回100%実施 <p>(2)服装、頭髪、礼儀、マナー指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動指標 ・年5回の全校集会実施 ○成果指標 ・100%実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期にアンケート、2・3学期に面談実施 ・100% ・毎月の頭髪服装指導時に実施 ・100% 	

改善課題

- 生徒の学力向上に向け、課題を把握し、普段から授業内容やレベルについての研究協議を行うことが必用である。
- 地域との連携や「総合的な学習の時間」を充実させ、将来の生き方にかかわる問題として、生徒が1年次から目的意識を持ち、その実現に向けて努力するようキャリア教育に取り組む必要がある。
- 就職を希望する外国人生徒が年々増えているので、求人開拓が急務である。
- 頭髪・服装については、以前に比べ、大きな乱れもなく、落ち着いてきているが、マナーや規範意識に課題がある生徒もいる。家庭との連携や進路指導の側面からも生徒にアプローチし、理解させることも重要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
応用デ科と英語コミ科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る	(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流 ○活動指標 ・学年集会、行事、発表会、展覧会で実践 ○成果指標 ・各学期1回以上の実施	・応デ科ファッションショーへの英コミ科モデル参加。 ・応デ科卒業制作展・英コミ科英語表現演習発表会に全校生徒が参加。 ・修学旅行で交流会を実施	◎
学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う	(1) 経営品質委員会による改善活動を確立 ○活動指標 ・年間2回以上実施 ○成果指標 ・100%実施 (2) 国際サポート体制の構築 ○活動指標 ・担任、教科担任、SSW、SCとの連携 ○成果指標 ・年間3回以上の実施 (3) 生徒指導委員会の定例化 ○活動指標 ・情報交換など毎月1回以上の実施 ○成果指標 ・100%実施	・委員会2回、グループミーティング1回実施 ・100% ・担任・教科担当と随時連携、SSW・SCとの連携が必用な事案なし ・定期的な開催ができなかった	※
地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する	(1) 鈴鹿ロータリークラブと交流、連携を行う ○活動指標 ・地域清掃など貢献活動の実施。 ○成果指標 ・年2回、生徒参加率50% (2) 情報発信を積極的に行う ○活動指標 ・中学校訪問年3回以上 ・毎月の飯野高校 HP 更新 ○成果指標 ・100%実施	・鈴鹿さくら祭りのポリオ撲滅のための募金活動に15名参加、校外清掃に約60名参加 ・1学期に管理職・応デ科教員・英コミ科教員、2学期に管理職・英コミ科教員が訪問 ・100% ・2月末に新HPを立ち上げ	◎ ※

	(3) 地域が主催の展覧会や県教委からのデザイン依頼への積極的参加 ○活動指標 ・各コースの積極的参加 ○成果指標 ・年間5回以上	・県展、市展等へ多数出品 その他依頼に対応	
生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する	(1) 生徒、保護者のニーズを把握するアンケートの実施 ○活動指標 ・年間1回実施 ○成果指標 ・100%実施 (2) 生徒保護者への携帯メールでの情報提供 ○活動指標 ・年間5回以上実施 ○成果指標 ・100%実施 (3) 学校の情報の適切な管理 ○活動指標 ・管理状況点検 年間1回実施 ○成果指標 ・100%実施	・2学期末に実施 ・100% ・20回送信 ・100% ・GW 前に実施 ・100%	※
教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する	(1) 労働安全衛生を図る ○活動指標 ・過重労働者への面談月1回 ・安全衛生委員会年2回実施 ・ノー残業デー年20日間実施 ○成果指標 ・100%実施	・産業医面談時に実施 ・夏季・冬季に実施 ・各考査中に実施 ・100%	

改善課題

○応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流については、行事だけでなく、LHRなど普段の活動の中で機会を創出する必要がある。

○学年会・部会・グループミーティングなど職員同士が話し合う機会を増やし、継続的に改善活動に取り組むことが大切である。

○各科の取り組みなど、新しいホームページを活用し、積極的に発信する。

○アンケート結果を活用し、改善活動に繋げていくことが大切である。

○多忙化の解消については、特定の職員に業務が偏らないよう平準化を図るとともに、職員も定期的な年休取得を心がけるとともに、自らの働き方について考えることが大切である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○アンケート結果から生徒の満足度が高いことがわかる。満足度が低い点については、生徒の良い点・努力した点を褒めることにより生徒を伸ばしてほしい。 ○生徒に早い段階から目的意識を持たせるためには、進路ガイダンス等を科別に実施することも必要である。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	本校に入学したことへの満足度、授業や進路指導に対する満足度に比べ、目的意識を持って授業や学習に取り組んでいる割合が低いことから、職場体験の参加者を増やすなど生徒自ら進路実現に向けて能動的に活動する機会を増やす。
学校運営についての改善策	学年会や部会、グループミーティングなどを定期的に開催することにより職員間の情報交換を密にするとともに、課題解決に向け継続的な協議を行う。